地すべりボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　柳津地区地すべり対策砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor No.4	調査位置	（仮）柳津地すべり対策事業に伴う業務委託	北緯	34° 26′ 34.2138″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	平成31年 4月26日～ 令和元年 5月 9日	東経	133° 15′ 48.6418″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 13.18m	角度	180°（上）～ 0°（下）、90°	方向	0°北、90°東、180°南、270°西
総削孔長	15.00m	地盤勾配	0°（水平）～ 90°（鉛直）	使用機種	試錐機：東邦DO-型試錐機 / エンジン：TF-70V-E / ポンプ：東邦製BG-3

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	工学的地質区分名／現場土質名（模様）	工学的地質区分名／現場土質名	色調	風化の程度	変質の程度	破砕度	硬軟・相対稠度	相対密度	記事
1～2	10.38	2.80		礫混じりシルト質砂	淡茶灰	w5	h4		E		細砂～細粒土を主体としている。 全体的に軟質であり，やや粘性を有する。 細礫を混入する。
3～4				砂質泥岩	淡灰	w5	h4		E		外周を残すものの全体的に風化が進行している。 GL-4.0mまで脆弱で褐色化している。 GL-4.0m以深は原岩色に近い暗灰色主体である。 硬軟互層を呈しており，亀裂角約40度を主体としており，層理面角とほぼ一致する。 カッターで容易に削れる。 細礫混じり粘土と固結棒状コアを繰り返す。 亀裂沿いでは，褐色に変色し細礫上を成す箇所が散見される。
5～8					～	w4	h3		D		
9	4.28	8.90		泥岩	暗灰	w4	h2		C		岩片～礫状コア主体。 岩片は比較的硬質である。
10～15	3.09	10.10		泥岩	黒褐	w3	h2		B		比較的新鮮であり，硬質である。 概ね棒状～短棒状コア。 短棒状コアを主体しており，亀裂面は比較的新鮮である。 GL-11.1～11.4m，13.7～13.9m，14.6～15.0m間，亀裂が多く一部礫状を呈する。
	-1.82	15.00									

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度（m）	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1	1.15	1			1/300		
	1.45						
2	2.15	1/210	1/200		2/410		
	2.56						
16	3.15	4	5	7	16/300		
	3.45						
30	4.15	10	10	10	30/300		
	4.45						
50	5.15	10	15	25	50/300	300	
	5.45						
30	6.15	12	9	9	30/300		
	6.45						
50以上	7.15	10	15	25	50/290	290	
	7.44			90			
46	8.15	17	14	15	46/300		
	8.45						
50以上	9.15	50			50/80	80	
	9.23	80					
50以上	10.00	50			50/50	50	
	10.05	50			50		
50以上	11.00	50			50/50	10	
	11.01	10			10		
50以上	12.00	貫入不能			50/0	0	
50以上	13.00	貫入不能			50/0	0	
50以上	14.00	貫入不能			50/0	0	
50以上	15.00	貫入不能			50/0	0	

原位置試験	室内試験	作業日毎の孔内水位 削孔月日	孔内水位 作業後 作業前（m）	ケーシング下端深度（m）	孔壁保護 孔径（mm）	種類	実施理由	地下水検層方法（白/淡）	保孔管	削孔状況 コアチューブ・ビット	削孔水・送水量（L/min）	排水量（L/min）
		4/26		4.50	66	B2	崩壊			S/MC	W1/0	0
		5/7		8.80		B2	崩壊			W/D	W2/4	4
		5/8	4.08	8.80								
		5/9	9.89	13.00	66					W/D	W2/7	7